



GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

2760通信

ガバナー月信
APRIL 1995

NO. **11**

1994～1995年度、国際ロータリー会長のテーマ

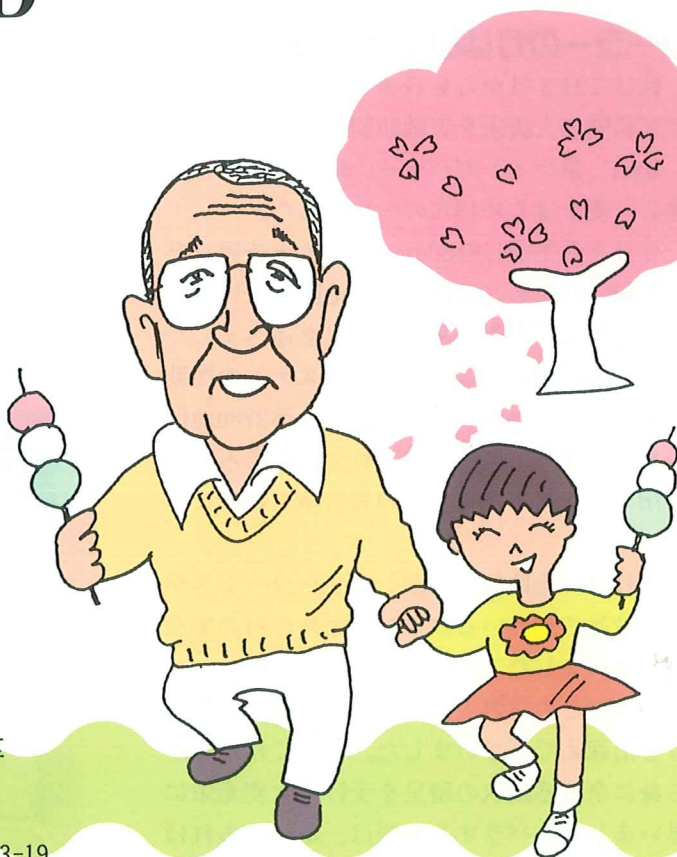
BE A FRIEND

友達に なろう。

R.I.会長/ビル H. ハントレー

〔 雑誌月間 〕

笑くも桜
はも桜の
心です。



1994～1995年国際ロータリー第2760地区

ガバナー 蜂谷 弘道

事務所/〒451 名古屋市西区樋の口町3-19

ホテルナゴヤキャッスル 427号室

TEL. (052)521-2121 FAX. (052)523-1998

パラオ共和国 訪問記

こころ洗われる自然と人とのふれあい

1994～'95年度国際ロータリー第2760地区

ガバナー 蜂谷 弘道



雑誌月間に寄せて

今月は雑誌月間です。ロータリアンの皆様は「THE ROTARIAN」または日本で発刊されている「ロータリーの友」を購読する義務があります。

「良きLEADERは良きREADERである。」と言われるように私たちロータリアンは雑誌を通じて会員相互のコミュニケーションをはからなければならないと思います。

ソーラーの灯はD-2760の光と温もり

私は3月2日から6日までの5日間、パラオ共和国の大統領を表敬訪問いたしました。

加納 泉パストガバナー、地区幹事の森武保ご夫妻をはじめ13名の一行でした。

3月3日午前11時30分、パラオ大統領官邸へお伺いいたし、当2760地区 地区大会において大統領にご来駕を賜ったお礼を述べました。そして大統領からはソーラーシステムの援助を受けたことへのお礼を頂戴し、「第2760地区のロータリアンの皆様にくれぐれもよろしくお伝えいただきたい。」とのお言葉を賜りました。

翌日は、当地区が寄贈したソーラーシステムが設置されているガラスマオ島の村の集会場を訪れました。

50人ほどの村の人々が子供も連れて、私どもを出迎えて下さいました。そして州知事から身に余る感謝状の贈呈を受け、大変光栄に思いました。パラオ共和国は、かつてあれほど激しい戦禍に苦しんだにもかかわらず、心

から親日的で私どもは感激いたしました。

輝く海、ヤシの葉陰を揺らすそよ風、すべてが平和そのものでありました。裕福ではないものの貧困にあえぐ姿もなく、国の健やかな成長を見た気がいたしました。

私は心の中で「平和というのはこれが真の姿だなあ。」と実感したのでした。

私は、このパラオ共和国に対する当2760地区の皆様の真心のこもったご好意に心から感謝致します。そしてここへ来て、ソーラーシステムをお贈りして本当に良かったと心底より思ったのです。

この国は独立してもまだ幾つかの難しい問題を抱えていると思いますが、今後も最善の努力をしてあげようと心に誓ったのであります。

2760地区のロータリアンの皆様、一度パラオ共和国を訪れて下さい。美しい人間の感情と歓迎に接することができると思います。



左から加納P.G.、ナカムラ大統領、蜂谷G、蜂谷夫人



南の島を訪れて。

バストガバナー **加納 泉**

昨1994年秋、盛田・神戸両P.G.はパラオ共和国の独立記念の式典に参加され、当2760地区からのソーラーシステム寄贈の目録を大統領に贈呈されました。そのご縁から日本人三世のKUNIO NAKAMURA大統領に当地の地区大会にご出席いただきました。

パラオにソーラーの電灯が灯ったとの報に接すると共に大統領からの視察訪問歓迎の辞をいただきましたので、蜂谷夫妻、森地区幹事夫妻、柏木、安井、服部の名古屋和合RCのメンバー、通訳としてガバナー事務局の河合女史等、総勢13人で3月2日から6日まで4泊5日の親善表敬視察の旅をして参りました。

PALAU共和国は本州の真南3500kmの赤道直下の太平洋に浮かぶ200余の島々で、戦前までは日本の南洋庁が置かれていた所であります。現在住民の暮らしている島は7つだけで他は無人口島です。人口は16,000人位との由。

私共の寄贈しましたソーラーシステムはコロール本島の北にある最も大きいバペルダオブ島の西北の一州Ngardmau (ガラスマウ) に設置されました。設置にあたってはPalau Energy OfficeのマネージャーのGreg Decherongさんという米国工科大学で勉強された専門家の指導の下に行われ、彼は私共の視察にも同行してくれました。このガラスマウへの道は未だなく、海上をボートで走る以外はありません。戦前日本の燐鉱石発掘の鉱山があり、そこで働いた現地の老人は流暢な日本語で一軒一軒の夜が明るくなった事を喜んで説明してくれました。

燐鉱石を含んだ真赤な土壌、天然の椰子、バナナが自生し、香り高きプルメリアの白やピンクの花びらが無造作に散り、鳥の声以外何の音もない静けさと紺碧の空から思い出した様に降るスコール、褐色で腰に薄物のみを纏って子供を抱く女性の無表情で精悍で大きくギョロリとした目付

き等、南洋の島の人々に直接接する事ができました。村の集会所には約30人程の村人が集まっていた英語で感謝状をいただいて参りました。

数軒の家庭に入り天井から一箇の電灯が灯っているのを見て参りましたが、ほとんどの家は掘立小屋のトタン張りです。良い家庭はブロック積みのトタン葺きでした。一番感心した事は、蚊や蠅が少ない事です。マングローブの林に消毒作用があるともいわれますが、米国の50年の統治下で道路の側溝作りが徹底され、排水に成功しているのも大きな原因のようです。

大統領との会見で、蜂谷Gはパラオにもロータリークラブを作して下さい。そして日本のロータリーアン達毎年親睦に訪れたいと要望されました。

コロールの中心部に30億円をかけたという立派な病院がありパラオの婦人の分娩はほとんど病院で行われるという事でしたし、社会保障はかなり進んでいるようです。又、パラオの人々はなかなか商売がうまくお金持ちも多いそうです。家庭にはフィリピン人のメイドがおり、レストランのウエイトレスもフィリピン人であったのには驚きました。

一日はコロール本島から南にあるPeleliuの戦跡を訪ね、昭和19年11月、1万余の日本軍が守備するこの島に4万の米軍が上陸、1ヶ月に及ぶ戦いで日本軍は全滅、米軍も6,000余人を失ったという激戦の地で戦車や大砲の残骸を前に線香を手向けて参りました。

又、大統領のご好意により政府の海洋調査船に乗り、トローリングを楽しみ1m余もある“さわら”“かます”の手応えを満喫致しました。パラオの松島と言われるRock Islandでは、紺碧の海にダイビングをして魚たちとたわむれる機会にも恵まれました。

大統領から皆様にも是非お出かけ下さいとの伝言でございました。

パラオ共和国ソーラーシステム寄贈 喜びと感謝を表明——R.I.D-2760の皆様へ。

K N 決議第3-14-95

ケルルーガラスマオ第3地区
第2回特別議会
1995年3月1日

決 議

国際ロータリー第2760地区(愛知県)の皆様の素晴らしい贈物に対し深い喜びと心からの感謝を表明する為に決議する。

- 一、ガラスマオの住民は電力を持たず、生活環境の改善をはかり、人生の楽しみと幸福を追求することを永年望んでいました。
- 一、発電設備は高価で、これを使用することは安定的な収入のない住民にとって経済的に無理でした。
- 一、ソーラーシステムによる発電は最も望ましいものでしたが、低収入の為、そのような贅沢は許されませんでした。
- 一、1994年9月、2760地区のロータリアンが来島され、家にソーラーシステムによる電気の使用法を試み、大成功でした。
- 一、1995年2月9日、第2760地区よりソーラーパネル、バッテリー、配線及び附属品が贈られ、大統領のご助力のもと、ガラスマオの全家庭に設置されました。

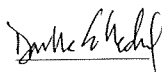
- 一、今では毎日夕暮と共にガラスマオの住民は第2760地区の全会員より贈られました各家庭への光を喜び楽しんでおります。
- 一、1995年3月1日、第2特別議会を開催するに当たり、州知事及び住民は深甚なる敬意と感謝の念をソーラーパワーによる電気エネルギーという素晴らしい贈物をして下さった第2760地区のロータリアンの皆様に表明します。
- 一、ケルルーガラスマオ第3地区(州議会)は第2760地区の代表の方に、パラオ大統領、第4オルビルエラケルラウ議会の議長、ガラスマオ州議員スワーツドン、ガラスマオ州知事、ガラスマオ州長に証明されたこの決議文をお渡しいたします。

1995年3月1日



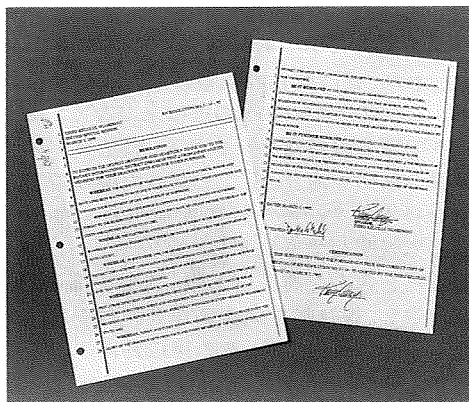
クイロイ アルラング
ガラスマオ州スポークスマン

証明者



証明書

この決議文は1995年3月1日にケルルーガラスマオ第3地区KN決議第3-14-95に採択されたものに相違ありません。



パラオ共和国 訪問記 こぼれ話



パスポートがない！

地区幹事

森 武保

先般蜂谷ガバナーのお供をして、パラオ共和国を訪問しました。大統領をはじめ政府関係者より大歓迎をいただき、又、当地区より贈呈したソーラーシステムの順調な稼動状況を視察する機会を得ました。

詳しい内容は別稿に、蜂谷ガバナー及び加納バストガバナーのご報告に譲るとして、帰国の折のハプニングについて記してみたいと思います。

最終日、空港貴賓室で出発便を待つ間、この5日間案内して下さった大統領補佐官のB・サルバドール氏の顔色がさえない。室内の電話を使って方々へかけ続けています。言葉の端々から誰かのパスポートが紛失したので、その対応を協議している様子。心配になって尋ねると何と私のパスポートが見当たらないとの事。到着時この室で政府関係者に全員のパスポートをお預けして以来、今日まで我々も見せていません。

午前11時発のコンチネンタル・マイクロネシア航空機から、10時40分頃、他の乗客はすべて搭乗し、我々一行を待っているから早く搭乗して欲しいとの催促の連絡が係員より伝えられて来ます。

ホテル、政府事務所、車の中等全てチェックしたけれど発見できないとの事で、サルバドール氏は最後の手段ということで、パラオ外務省が証明書を発行するのでそれで出発して欲しいということになりました。11時10分全員航空機へ向かいました。しかし、他の皆様はすんなりゲートを越えられましたが、私だけストップがかかってしまいました。パラ

オ外務省がグアムのアメリカと日本の領事館に電話を入れたため、かえってややこしくなった様です。

係員の説明によると、グアムはアメリカの統治下にあるので、例えトランジットといえどもパスポートのない人間を空港に降ろす事はできない。だから夕方の便でグアムから証明書が届くので、それまでここで待機されたいとの事です。飛行機からはドアを閉めると合図をしきりに送って来ます。

一瞬青ざめたけれど、その時飛行機の中よりスチュアードが駆け足でゲートまで来て、「あった、あった」とパスポートを渡してくれました。それが私のものかどうかの確認もなしに、受け取るや必死で飛行機に飛び乗りました。定刻30分遅れで無事離陸し、ホッと、パスポートを確認すると、間違いなく私のものでした。

事の顛末は簡単な事でした。機中で加納バストガバナーがご自分のパスポートを開けられたら、中に私のパスポートが入っていたということです。出国管理官が出国印を押した後、何らかの理由で旧型の大型パスポートの中に、小さい新型のパスポートが紛れ込んだようです。その証拠に私のパスポートにも出国印が押してありました。

ハラハラ、ドキドキの1時間でしたが、逆を言えば面白い思い出ができました。それにしても全身汗まみれになって奮闘して下さったサルバドール氏には、ゆっくりとお礼を申し上げる時間もなくてお別れした事が心残りです。

MA URIUL またお会いしましょう。

「雑誌月間」に因んで

地区ロータリーの友
委員長 井澤 慶一

「ロータリーの友」は公式の地域雑誌であり、ロータリークラブ定款第12条に「会員はR.I.の機関雑誌又は地域的なロータリー雑誌を有料で購読しなければならない」とあって12万人余のわが国ロータリアンの手許に必ず毎月届けられている。

そして「手続要覧」第1章及び第4章「機関雑誌」の項に「ロータリアン誌の基本目的は理事会がロータリーの目的を推進し、ロータリーの綱領を達成するのを助ける媒体の役割を果たすことである」とはっきり書いてあることを知らない会員が意外に多いようだ。だから「読まれざるベストセラー」なんて自嘲的なニックネームがつけられている。私の感的調査によれば大多数のクラブに於いて「よく読む」1/3「パラパラと読む」1/3「殆んど読まない」1/3といったところのようだ。地区委員や各クラブの雑誌委員長さんらの努力も空振りに終わっているのが現状である。各クラブでは読ませるための色々の工夫もされているが閲覧率が急激に高まったという話は聞かない。

そこで私は依頼された卓話の中で、以上の義務的根拠を明示した上、出席率や四大

奉仕と同様、大変な義務的行為なんだと真正面からの説得につとめると同時に“職業の鉄人・人生の達人”である会員各位の執筆記事（タテ組み）の面白さを強調する。と同時に訳文は未だ生硬なところもあるがR.I.の通達ならびに指定記事（ヨコ組み）をロータリー情報として活用してほしいと申しあげることになっている。各クラブにはミスターロータリーとかミスターSAAといわれる教条重視主義者がいらっしゃるが、その方たちの知識が案外古くて現在のR.I.の指示やら解釈を知らなくて新会員をミスリードされている現状を時折見かけるので、それらの盲点をやんわりご指摘申しあげることになっている。「ロータリーの友」を日頃精読すれば、どんどん進んでいる新しいロータリーの姿を見ることができる。もちろん一方では温故知新、ロータリーの原義をないがしろにはしてはいけないが。

当地区では雑誌委員長会議をもちたいが、各クラブの雑誌委員長さんは残る任期の間にユニークな閲覧向上のためのアイデアをぜひ実行にうつしていただきたい。

国際ロータリー第2760地区

1995～'96年度ガバナー・ノミニー紹介



ご挨拶

国際ロータリー第2760地区1995～'96年度
ガバナー・ノミニー

松本 宏

このたび、図らずも国際ロータリー第2760地区1995～'96年度ガバナー・ノミニーのご指名をいただき、身に余る光栄と存じております。

顧みますと、1964年に半田ロータリークラブに入会いたしまして以来31年間、楽しくロータリー活動に参加させていただきました。

小児の発達学は、大学時代から40数年、私のライフワークでございます。これを生かして、21世紀を担う子どもたちの健全育成の重要性に鑑み、育児教育、学校教育、社会教育の充実に力を入れてまいりました。これらは、ロータリーの青少年活動としても大変有意義な事業であると考えております。

これからは更に先輩各位のご指導をいただき、ロータリーの綱領に則り、奉仕の理想の実現に向けて、甚だ微力ではございますが、努力いたす所存でございますので、地区会員の皆様の深いご理解とご協力をお願い申し上げます。

国際ロータリー第2760地区各ロータリークラブの益々のご繁栄と、会員各位のご活躍とご健勝をご祈念申し上げご挨拶といたします。

松本宏経歴

氏名	まつもと こう
所属クラブ	尾張第一分区 半田ロータリークラブ
生年月日	1926年(大正15年)11月23日生
職業分類	シニアアクティブ(小児科医)
勤務先名	松本小児科医院 院長
ロータリー歴	1964年7月 半田RC入会 1980～'81年 半田RC副会長 1987～'88年 半田RC会長 1993～'94年 尾張第一分区代理 1994～'95年 地区ロータリー財団委員会委員 ポール・ハリスフェロー 米山功労者
最終学歴	岩手医学専門学校(現岩手医科大学)
その他	半田市教育委員6期(教育委員長6回就任) 半田市自治功労者

「ロータリーの原点を探り、大いなる未来へ——」

INTERCITY
MEETING

西尾張分区

1995年2月18日(土)
ホテルキャッスルプラザ
ホスト：稲沢ロータリークラブ



西尾張分区代理 **林 恵**

西尾張分区1994~'95年度のI.M.は、稲沢RCをホストとして2月18日(土)ホテルキャッスルプラザで開催された。特別出席者としてガバナー蜂谷弘道君ご夫妻、パストガバナー神戸政治君、宮地信尚君、地区幹事森武保君、地区副幹事服部和史君、地区会計長外村孝君、加納パストガバナーご夫妻、講師として第2570地区寄居RCの森三郎パストガバナーご夫妻をお迎えし、分区代理として西尾張第一分区清水良三君、名古屋第一分区朽木義一君、名古屋第二分区大谷和雄君、東尾張分区平林米司君、東三河分区梅村東君、西三河第一分区加藤喜作君、西三河第二分区太田昭夫君、次期分区代理一宮中央RC松前憲典君、次期ホストクラブ会長森瀬雅典君をお迎えし、あまRC、尾西RC、一宮RC、一宮北RC、西春日井RC、津島RC、一宮中央RC、稲沢RCのロータリアン278名参加の上盛大に挙行された。会議は、まず点鐘前に先の阪神大震災

による犠牲者の冥福を祈る黙禱に始まり、点鐘、君が代斉唱、田口実行委員長の開会の言葉、ホストクラブ会長木村章二君の歓迎の言葉、特別出席者、講師紹介、参加クラブ紹介、蜂谷弘道君のガバナー挨拶、分区代理挨拶と型どおり進み、休憩後16時10分より急きょ変更になった神戸パストガバナーの「規定審議会について」の講話をいただき、ついで森三郎パストガバナーの「ロータリーを語る」とのご講演をいただいた。原初のロータリー思想にはプロテスタンティズムの倫理観があったこと、即ち節約、勤勉、隣人愛、知足の土壌があり、そのうえに奉仕の理想が接木され、更に最近のR.I.会長のテーマには内省的なものが多かった点等の講演があり、参加者一同に深い感銘を与えた。続く懇親会は阪神大震災もあり縮小されたものであったが、懇親の実をあげ19時40分散会した。尚、当日の義援金として、678,324円が中日新聞に寄託された。

プログラム(敬称略)

開 会	
開会のことば	I.M.実行委員長 田口茂利平
歓迎のことば	ホストクラブ会長 木村章二
講師・特別出席者紹介	西尾張分区代理 林 恵
参加クラブの紹介	ホストクラブ幹事 林 茂夫
ガバナー挨拶	第2760地区ガバナー 蜂谷弘道
分区代理挨拶	西尾張分区代理 林 恵

講話・講演	
I.M.講話	「規定審議会について」
第2760地区パストガバナー	加納 泉
記念講演	「ロータリーを語る」
講師	第2570地区パストガバナー 森 三郎
次期分区代理紹介	西尾張分区代理 林 恵
次期分区代理挨拶	一宮中央RC 松前憲典
次期ホストクラブ紹介	西尾張分区代理 林 恵
次期ホストクラブ挨拶	一宮中央RC会長 森瀬雅典
閉会のことば	ホストクラブ副会長 大崎守義

懇 親 会	
開会のことば	西尾張分区代理 林 恵
乾 杯	第2760地区ガバナー 蜂谷弘道
(アトラクション)	
懇 親	
閉会のことば	I.M.実行副委員長 小森章平

特別出席者(敬称略)

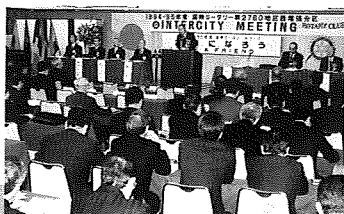
〈国際ロータリー第2760地区〉

ガバナー	蜂谷弘道(名古屋和合)
パストガバナー	加納 泉(名古屋中)
	神戸政治(あま)
	宮地信尚(豊川)
地区幹事	森 武保(名古屋和合)
地区副幹事	服部和史(名古屋和合)
地区会計長	外村 孝(名古屋和合)
分区代理	

尾張第一分区	清水良三(半田南)
名古屋第一分区	朽木義一(名古屋南)
名古屋第二分区	大谷和雄(名古屋千種)
東尾張分区	平林米司(犬山)
東三河分区	梅村 東(豊橋ゴールデン)
西三河第一分区	加藤喜作(豊田)
西三河第二分区	太田昭夫(安城)
次期分区代理	松前憲典(一宮中央)
次期ホストクラブ会長	森瀬雅典(一宮中央)

参加クラブ

あまRC	一宮北RC	津島RC
尾西RC	西春日井RC	一宮中央RC
一宮RC	尾張中央RC	稲沢RC



「広げよう交流の輪、友達になろう。」

INTERCITY MEETING

西三河第一分区

1995年2月25日(土)
豊田市産業文化センター
ホスト：豊田ロータリークラブ

西三河第一分区代理
加藤喜作

西三河第一分区は去る2月25日に豊田市産業文化センターでI.M.を開催した。本年度のホストは豊田RCで、参加クラブは岡崎市及び近在の4クラブと豊田東西加茂郡部地域の4クラブを加えて西三河第一分区として豊田市では初の開催となった。今年度のR.I.会長のビル・ハントレー氏はBE A FRIENDをテーマに掲げ、地元や職場地域の人々と遠く離れた人達とも友達になろうと提唱。豊田RCでは加藤分区代理、宇井実行委員長・宮田会長らを中心に全会員で実行委員会を設置し、I.M.の場づくりの発想を模索、検討を重ねた結果、基調講演とさらに在日外国人4名を迎えて意見交換を行い、加えて全会員とのディスカッションの場を設けた。さらに名刺交換会も行い、テーマである「広げよう交流の輪、友達になろう」の友情の輪を広げる初の場づくりをした。

当日は第2760地区の蜂谷弘道ガバナー、宮地バストガバナーをはじめ、前述の分区内の



プログラム(敬称略)

第1部 式典

開会の挨拶
特別出席者紹介
参加クラブ紹介
ガバナー挨拶
分区代理挨拶

第2部 ロータリーフォーラム

基調講演「友達になろう」 講師 弓場通義氏
在日外国人4名
意見発表者 4名
意見交換会
アドバイザー…フィ・チ・トルン氏
コーディネーター…杉浦弘高

ガバナー講演
次期西三河第一分区代理紹介
次期西三河第一分区代理挨拶
次期ホストクラブ紹介
次期ホストクラブ代表挨拶

第3部 交流会

開会の挨拶
乾杯
閉会の挨拶

特別出席者(敬称略)

ガバナー	バスト	ナガバナー	一	蜂谷弘道(名古屋和合)
幹事	幹事	幹事	一	宮地信尚(豊川)
副幹事	副幹事	副幹事	一	森 武保(名古屋和合)
張 第一分区代理	張 第一分区代理	張 第一分区代理	一	林 薫(名古屋和合)
名古屋第二分区代理	名古屋第二分区代理	名古屋第二分区代理	一	清水良三(半田南)
名古屋第三分区代理	名古屋第三分区代理	名古屋第三分区代理	一	朽木義一(名古屋南)
東 尾張第二分区代理	東 尾張第二分区代理	東 尾張第二分区代理	一	大谷和雄(名古屋千種)
西 尾張第二分区代理	西 尾張第二分区代理	西 尾張第二分区代理	一	平林 恵(大田)
東 三河第二分区代理	東 三河第二分区代理	東 三河第二分区代理	一	梅村 東(豊橋)
西 三河第二分区代理	西 三河第二分区代理	西 三河第二分区代理	一	太田昭夫(安城)
元 三河第二分区代理	元 三河第二分区代理	元 三河第二分区代理	一	田中邦夫(豊田)
地区拡大委員会委員長	地区拡大委員会委員長	地区拡大委員会委員長	一	加藤秀夫(豊田)
地区クラブ奉仕委員会委員長	地区クラブ奉仕委員会委員長	地区クラブ奉仕委員会委員長	一	服部国男(岡崎)
地区社会奉仕委員会委員長	地区社会奉仕委員会委員長	地区社会奉仕委員会委員長	一	金田李三(豊田)
地区世界社会奉仕(小)委員会委員長	地区世界社会奉仕(小)委員会委員長	地区世界社会奉仕(小)委員会委員長	一	牧 真(岡崎)
地区国際友好(小)委員会委員長	地区国際友好(小)委員会委員長	地区国際友好(小)委員会委員長	一	伊藤公正(岡崎)
地区青少年活動委員会委員長	地区青少年活動委員会委員長	地区青少年活動委員会委員長	一	宮本昌幸(岡崎)
地区インターアクト(小)委員会委員長	地区インターアクト(小)委員会委員長	地区インターアクト(小)委員会委員長	一	萩野銀一(岡崎)
地区ロータリーアクト(小)委員会委員長	地区ロータリーアクト(小)委員会委員長	地区ロータリーアクト(小)委員会委員長	一	都築 齊(岡崎)
地区ライオン(小)委員会委員長	地区ライオン(小)委員会委員長	地区ライオン(小)委員会委員長	一	中野敏男(岡崎)
次期西三河第一分区代理	次期西三河第一分区代理	次期西三河第一分区代理	一	小林衛司(岡崎)
西三河第一分区代理	西三河第一分区代理	西三河第一分区代理	一	加藤正男(岡崎)
			一	加藤喜作(豊田)

(順不同)

各分区代理7名、同分区内の地区役員16名、さらに分区内の8RCの会員(出席義務者他)総計250名が参加した。

第一部は式典、その前に今般の阪神大震災の犠牲者に対し黙禱を捧げた。第二部はRCフォーラムとして弓場通義講師の感動の講演、生命と愛の大切さ、共生を訴える基調講演があり、その後在日外国人による外国人から見た日本と友達等について日本語によるスピーチで意見発表した。発表者は鄭智賢(チョンジヒョン)韓国、愛知教育大大学院生(元米山奨学生)。黄地渕(ブラジル)豊田市内の企業勤務。アンジェラヴォルペ(イタリア)聖霊短大講師。王岩(ワンイエン)愛知学院大学生(米山奨学生)。発表後アドバイザー、フィチトルン氏(豊田国際交流協会事務局長)、コーディネーターの杉浦弘高君と豊田RC会員の2名が加わり会場全員をも含めてパネルディスカッションをした。

第三部では、今回は特に交流会と銘うって初めに名刺交換会を行い、一人でも多くの知己を得ることにした。一日の交歓を通じて、I.M.の成果と実をあげることができた。

「友達になろう」を基盤に、楽しいI.M.を展開

INTERCITY MEETING

名古屋第一分区

1995年2月27日 (月)

名古屋観光ホテル

ホスト：名古屋南ロータリークラブ



名古屋第一分区代理 **朽木義一**

蜂谷ガバナーをはじめ、18名の特別出席者、
 区内の11クラブ、区外クラブからの参加
 者を合わせて総員582名のロータリアンをお
 迎えして、盛大にI.M.を開催できましたこと
 を心より厚く御礼申し上げます。

式典並びに記念講演

蜂谷ガバナーのご挨拶に続いて、名古屋南RC元会長の小川修次さんより講話をいただきました。1966年入会以来“自分の職業は一生懸命に”と“ロータリーについて常に勉強する”を命題にロータリー活動をされていること、また内外のメークアップを通して多くの友人を得たが、それが縁でサンパウロ南RCとの姉妹提携が出来たこと等のお話を伺いました。同氏が今年のテーマ「友達になろう」をずっと以前から実践されていることに感心

をすると共に、80歳を超えた今もロータリーの理念を追求されている姿に感銘しました。

記念講演では、国際日本文化研究センター所長の梅原猛先生が、「森の文明と日本」と題して、西欧の小麦、牧畜文明は都市を生み科学技術を発達させ近代文明を築いたが、一方で森の破壊と砂漠化が進み環境問題が人類に深刻な課題となっていると指摘されました。一方で古代よりの日本の稲作文明は国土に今も67%の森を残し、人類と生物の共存に大切な知恵を教えているとのことでしたが、随所に大きな歴史観に基づいた梅原哲学を交えて大変分かりやすくお話いただきました。蜂谷ガバナーのご指導の下、環境問題に積極的に取り組んでいる我々に大きな示唆を与えていただいた講話でした。

第二部の懇親会は、昨年来の簡素なビュッフェスタイルで、和やかな雰囲気の中で、580余名の仲間が「友達になろう」を合言葉に大いに懇親を深めることができました。

最後に、今回のI.M.開催にあたり蜂谷ガバナー並びにパストガバナーのご指導と各クラブのご協力、そしてホストの名古屋南RCのご支援に対して深く感謝申し上げます。

プログラム(敬称略)

第1部 式典並びに記念講演

昇格及び転勤のため 特別出席者紹介 参加クラブ紹介 分区分区代理挨拶 ガバナリー挨拶 講話	ホストクラブ会長 名古屋第一分区分区 ホストクラブ幹事 名古屋第一分区分区 第2760地区ガバナリー 「私のロータリー」 ホストクラブ元会長 I.M. 幹事 「森の文明と日本」 国際文化研究センター所長	福岡 巧 朽木 義 栗田芳吉 朽木 義 蜂谷弘道 小川修次 鷺見 弘 梅原 猛
---	---	---

次期分区分代理招	名古屋第一分区分代理	朽木義一
次期分区分代理候補	名古屋第二分区分代理	荒木 巖
選出時ホストクラブ紹介	名古屋第三分区分代理	朽木義一
多摩市議会議員候補	名古屋東部トラークアップ地区会長	杉浦 弘
開会のことば	ホストクラブ会場エレクト	舟橋正輝

第2部 懇親会		
懇親会開会	ホストクラブ会場委員長	吉田明弘
歓迎のことば	I.M.実行委員長	山口賢道
二 挨拶	第2760地区 バナー	峰谷弘一
乾杯	第2760地区バスターナ	盛田和昭
食会		
閉	I.M.実行委員長	高田真吾

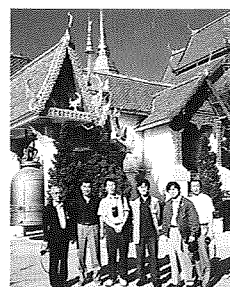
特別出席者(敬称略)

第2760地区ガバナール	蜂谷弘道	名古屋第二分区分代理	大谷和雄
バストガバナール	近藤玄右衛門	東尾張分区分代理	平林孝一
//	奥古博俊	西尾張分区分代理	林 恵
//	福田浩三	東三河分区分代理	梅村 東
//	田中 徹	西三河第一分区分代理	加藤喜作
//	盛田和昭	西三河第二分区分代理	太田昭夫
//	加納 泉	第2760地区幹事	森 武保
//	神戸政治	第2760地区副幹事	服部和史
//	地区信高	次期分区分代理	荒木 巖
尾張第一分区分代理	清水良三	次期ホストクラブ長	杉浦 弘

第2760地区ニュース・その他

タイ国を訪れて W.C.S.活動の 重要性を知りました。

地区世界社会奉仕(小)委員会
委員長 牧 真



今回、私自身3度目のW.C.S.視察旅行に参加させて頂きました。今回は、比国、タイ国二手に分かれ、私は、タイ国視察旅行に同行させて頂きました。

毎年タイ国を訪れておりますが、以前に比べ、街は整備され、若い女性や家族連れの観光客が夜中まで出歩いている光景が多く見られました。それだけ治安も良くなってきたということでしょう。

私は今回初めて、W.C.S.委員長として、この視察旅行のために、比国、タイ国の各地区とコンタクトを取り、基金活動プロジェクトの内容を詰めて参りました。しかし、初めてということもありましたが、言葉の壁もあり、うまくコミュニケーションがとれず、大変苦勞を致しました。また、両地区ともロータリー活動に大変熱心であり、出発前日までその対応に追われておりました。

今回の視察で、歴代の委員長の方々のご苦勞とご努力が十二分に身にしみ、改めて、頭の下がる思いでございます。特に前片山委員長の育成基金の設立に関しましては、大変なご努力であったと思われます。今後もこの育成基金は、比国、タイ国の子供たちのために役立つよう、確実に運営されていくものと思われま

す。今回の視察旅行では、我々自身も儉約のために、エコノミークラスを使って参りました。

チュンマイ空港に到着すると、例年のように、当地区のガバナーを初めロータリアンの方々が、我々を盛大に迎えてくれました。しかしそれは、現地の人々、特に60歳を過ぎた年配の人達にとっては、あまり良い印象ではなかったことを、3360地区委員長のドクタースミンのお話で初めて知りました。彼らの心の中には、戦争で味わった怖い日本のイメージがまだ深く根付いているようです。確かに3年前の訪問時には、彼らは顔を伏せ、我々と目を合わそうとしなかったことを思い出しました。

しかし、毎年の視察旅行の甲斐があり、少しずつ彼らの心は開かれ、受け入れられ始めていることを今回感じとることができました。以前の彼らの暗い表情は和らぎ、笑顔さえ見ることができました。また彼ら自身から握手を求める光景も見られるようになり、今回初めて、W.C.S.活動の意味を確信致しました。

ドクタースミンは、このW.C.S.活動を、たとえわずかな基金であっても、彼らのために、今後もぜひ続けてほしいと願っていらっしゃいました。

今回の委員長としての視察旅行は、正直いって、これまであまり積極的でなかった自分を恥じるとともに、その活動の重大さを改めて思い知らされる旅行になりました。

（米山奨学生選考会）

米山記念奨学会

委員長 米田 春雄

米山奨学会1995学年度申込者は、2,049名で当地区の申込数は91名でした。昨年は95名ですからほぼ同数です。内訳は米山奨学生申込39名、Dis Y-A 1名、Dis Y-B51名でした。第1回の選考会は、昨年12月9日ガバナー事務所で開催し、①無資格者について、②書類選考合格者について、それぞれの決定をいたしました。以降の手順として87名の書類を7部ずつコピーし、選考委員7名宅へ送付、選考委員は2月8日の面接試験（第2回選考会）までにこの書類を精細に閲読して自分なりの書面上の採点をします。書類は、住所、氏名のほか、1994年10月現在の在籍大学、1995年4月からの在籍予定大学、専攻科目などのほか、学歴、経済状況、保証人、推薦者のある場合は推薦者氏名、指導教官から米山奨学会への推薦状（親展封印）研究計画または研究状況報告書等からなっており、指導教官の推

薦状と研究計画、研究状況報告書は重視することとされております。これらを読むことは大変な労力を要しますし、責任を痛感いたします。面接試験（第2回選考会）は2月8日名鉄グランドホテルで実施しました。選考委員はA班B班にわかれ、面接の終わった学生には選考補足のため当方の課題について小論文を90分以内に原稿用紙二枚程度書いてもらいました。本年度の課題は、「故国への提言と日本への要望」「私なりの国際親善」のいずれかいたしました。これらを十分読み総合的に判断し、選考委員それぞれが採点をして最後にコンピュータで序列案を作成し、最終選考会による決定を地区理事から米山本部へ報告いたします。米山奨学会から文部省はじめ他の奨学団体との二重申込等のあるなしを調査し、最終決定は3月上旬頃となります。

文庫通信 第91号

新年度に向けて

- ◎「小さな爪跡 おたまじゃくしのロータリアン」 飯島国男 1986年 308頁
[申込先 ㈱飯島楽器 TEL(0552)32-3345]
- ◎「ロータリー役員必携」 石井省三 1989年 314頁
[申込先 イシイ出版(有) FAX(0277)22-4080]
- ◎「広報マニュアル」 D.255 1991年 24頁
[申込先 ロータリー文庫(コピー)]
- ◎「S. A. A.」 大館北R. C. 1992年 7頁
[申込先 ロータリー文庫(コピー)]
- ◎「ロータリーを高めるために」 肥川治一郎 1992年 86頁
[申込先 肥川治一郎 TEL(0425)87-8488]
- ◎「四つのテストを言行の指針として」 村上治朗 1993年 43頁
[申込先 岐阜RC TEL(0582)64-9235]
- ◎「薬味の小鉢 ロータリー説話集」 斎藤秀雄 1994年 43頁
[申込先 ロータリー文庫]
- ◎「Program」 D-2770 1994年 56頁
[申込先 ロータリー文庫]
- ◎「会長の時間 記録集」 井野 壽 1994年 65頁
[申込先 ロータリー文庫]

ロータリー文庫

〒105 東京都港区芝公園2-6-3 abc館 7階 TEL(03)3433-6456・FAX(03)3459-7506
開館＝午前10時～午後5時 休館＝土・日・祝祭日

青少年交換プログラム 三者懇談会

●開催日 1995年2月4日

●場 所 ホテルキャッスルプラザ



地区青少年交換(小)委員会
委員長 林 光雄

(出席者) 略敬称

地 区 幹 事	森 武 保
次 期 地 区 副 幹 事	佐 藤 脩 次
地区国際奉仕委員長	吉村卯一郎
地区青少年交換(小)委員長	林 光 雄
地区青少年交換(小)副委員長	木本精之助
地区青少年交換(小)委員	大 谷 和 雄
//	神 田 憲
//	井 坂 明 雄
* 受入留学生	5 名

ホストクラブ	国際奉仕委員長	ホストファミリー	高校名	関係教員名
東 知 多 R C	馬渡 勝男	岡戸 淳子	阿 久 比	島村 秀
名古屋東 R C	水野 茂生	本多 満	名 東	水谷崇、加藤誠
名古屋大須 R C	松本 哲了	小鹿 誠子	愛知淑徳	黒川 潮
小 牧 R C	土屋 正廣	山中 増夫	小 牧 南	佐藤 啓子
瀬 戸 R C	藤本 昌孝	丹羽 芳史	聖カピタニオ	市野哲也マーガレット
豊川宝飯 R C	浅野 桂	波多野四郎	御 津	谷口 茂
岡 崎 R C	藤井 正己	蜂須賀利雄	岡崎城西	松井 健一
岡崎城南 R C	糟谷 幸二	近藤 敬道	岡 崎 東	青山 道子
岡 崎 南 R C	磯谷 和汪	牧 真	光 ケ 丘	浅岡 典枝
豊 田 西 R C	勅使河原敦夫	須賀 碩二	衣 台	本多 信義
高 浜 R C	加藤 安啓	犬塚 稔枝	高 浜	片山 和久
安 城 R C	高村 公弥	高村 公弥	安 城 東	高橋 守

第2760地区青少年交換委員会の「第1回三者懇談会」を去る2月4日に開催、上記の通り多数の方々のご出席をいただき好評裡に実施することができました。

委員会の組織も、委員長を総括とし、事務局を独立させ、委員はそれぞれアメリカ、カナダおよびオーストラリアを担当する仕組みとして2年経過、ようやく委員会活動も順調に流れるようになりました。これも委員の皆様方の熱意と、ガバナーの深いご理解のお陰と感謝いたします。

今年度の派遣留学生の募集は、愛知県教育委員会並びに名古屋市教育委員会の後援をいただき、より適切な、より優秀な学生を選んで国際理解と国際親善の実を上げたいと考えております。地区内の各ロータリークラブにおかれましても応募がありましたなら対応できるように早めにご準備していただきたくお願い申し上げます。

以上のような理由で、初めてクラブの国際奉仕委員長、ホストファミリーおよび受け入れの高校の先生方にもご出席いただき、「三者懇談会」を開催し、それぞれの立場で、忌憚のないご意見を発表していただき、派遣と受入共に反映できれば

と期待いたしました次第です。

ホストファミリーのお母さんは、各家庭によって受け入れ留学生に対する「待遇」の格差が余りないようにしてほしい。地区の「ルール」を守るように心掛けてほしい(門限、旅行等)。他人しかも外国人を預かる場合母親の苦労が一番大変とのこと。

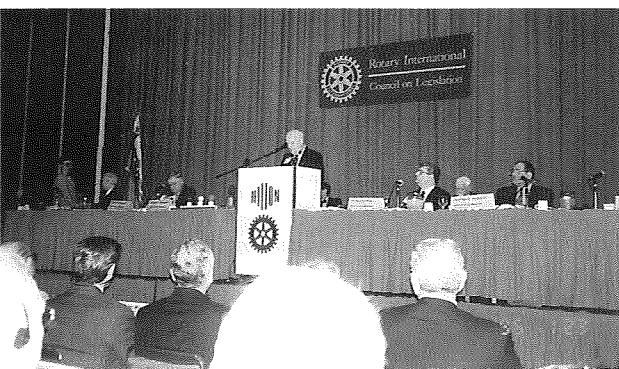
高校の先生は、留学生が家庭にいる時と学校で友達といるときとの違いを知って欲しい。一つの高校として、留学生を受け入れる限度は、3～4名ぐらいとのこと。

ホストクラブとしては、派遣はよいが同数の受け入れが難しい。受け入れに対する予算はどの程度準備したらよいか。(一年約100万円)

以上午後4時30分より約2時間、吉村地区国際奉仕委員長の挨拶をいただき、青少年交換委員会より現況報告を行った後、三者の皆様方から熱心なご発言をいただきました。

懇談会終了後出席者40数名により、約1時間飛び入りの受入留学生5名も交じえて、なごやかに懇親会が行われ次回を約して午後7時30分解散しました。

1995 R.I.規定審議会報告



地区代議員 高沢 隆

1. 地区内クラブよりのアンケートについて

10月末開催の地区大会においてガバナーより各クラブにR.I.より送られている審議会で審議される制定案について賛否の意見提出のご依頼がありました。出発までに、名古屋名東、一宮、一宮北、一宮中央、知立、豊川、豊橋の7クラブより回答をいただきました。いずれもロータリアンとして妥当な判断と思われ、各案件の採決の折に尊重させていただきました。結果は一宮と一宮北両クラブが賛成された95-20(メークアップ期間の延長)と、賛成の多かった理事会提出の95-91(理事選挙の件)は採択になりました。

2. 審議会での議決内容について

審議会は「R.I.の立法機関」といわれ、ロータリアン一人ひとりの活動を定める大切な機関です。審議会は世界506地区から選挙された投票権を持つ506名の代議員と投票権のないR.I.の役員(R.I.会長及び元会長他)で構成されております。

本年は南米ベネズエラ的首都カラカス市のヒルトンホテルで1月23日~26日まで4日間開催されました。出席者は、503名の代議員(直前の死亡者2名と神戸市の代議員石井PDGが1月17日の大震災による医療奉仕のため欠席)とビル・ハントレーR.I.会長他、R.I.役員、審議会の名義長ウィリアム T. サージェント氏他、関係者及び夫人達全部約700名位でした。日本からは代議員33名と服部理事、玉村日本語担当通訳、ロータリーの友の別所氏、それに同伴のご夫人12名、合計48名の参加でした。

審議された議案は制定案159、決議案37、合計196。そのうち採択されたものは、制定案22、決議案9、合計31(内無修正21、修正10)理事会への委託5となっております。制定案はR.I.定款細

則、クラブ定款の改正をすることになる案件で前年の5月末日が提出の締切日となっており、決議案はR.I.の組織規定を改正することにならない案件で、締切は審議会開催日までとなっております。

審議会はビル・ハントレー会長の挨拶から始まり、最初に阪神大震災への見舞いと援助の決議案が提出され、満場一致で採択されました。今回採択された制定案のうちクラブ運営上関係の深いものは次の2件であります。

①95-20、メークアップ期間を延長する件で、現在の7日から14日以内に変更となりました。この議案については賛否両意見が多く、最終的に起立により263対224の少差で採択されましたが、問題を残した制定案との意見も多い様です。

②95-32、欠席による会員身分の終結規定を明確にする件で、ロータリアンがロータリー年度の前半と後半の各6カ月間の両方において最低限の出席条件を満たさなければならないことを明確にしたものです。これは厳しい変更であります。

また、問題の理事会提案の95-91は関係地区の反対はありましたが、意外と早く採択されました。D2760は第3ゾーンです。

3. 結び

開催地カラカスは、出発直前にR.I.より治安が悪いので注意する様にとの警告の案内がありましたが、予告通りの状況でご夫人達も日中でも市内に安心して出かけられなかった様です。全世界よりメンバーを集める場所としては疑問が残りました。しかし、現地の日本人のロータリアンと日本大使館の皆さんの親切な案内とご配慮はいつもでも心に残るものがありました。

さて、次期審議会の開催地はアジア地域とのことで日本かとも言われております。今回の経験から私達の地区からも制定案の提出を是非お願いしたいと思います。そのためには地区大会の決議案に審議会に提案出来る様な議案を出し地区の承認が必要です。





田原ローターアクトクラブ創立20周年

◆記念大会◆

●とき 平成7年3月12日(日) ●会場 田原文化会館 文化ホール

ご挨拶

田原ローターアクトクラブ

会長

石川 仁

田原ローターアクトクラブは1975年5月誕生以来、20年の歳月を無事経過し、この良き日を迎えられましたのは、提唱クラブであります田原ロータークラブをはじめOBの皆様、地区内ロータリアンの皆様、またアクトの友人、そして地域関係者の方々の温かいご支援の賜物と会員一同深く感謝するとともに心より御礼申し上げます。

私ども田原ローターアクトクラブは本年度のクラブテーマを「初心に返って」と定め、この20周年をひとつの節目として常に原点に立ち帰って活動してまいりました。

これからも、今日まで伝統と歴史を積み上げてこられたOBの皆様のアクトの精神に恥じないように会員一同決意を新たに活動してまいりたいと思います。

今後とも皆様方より一層のご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

PROGRAM

式典

開会宣言	実行委員長	渡 辺 英一郎
来賓並びに参加クラブ紹介	田原RAC会長	石 川 仁
歓迎の辞	田原RAC会長	石 川 仁
提唱RC会長挨拶	田原RC会長	鈴木 富也
来賓祝辞	田原町長	柴 田 芳三
	R1第2760地区ガバナー	蜂 谷 弘道
	ローターアクト地区代表	光 村 彰浩
祝電披露	アシスタント	藤 城 靖枝
閉会の辞	実行委員長	渡 辺 英一郎

記念講演

元チームトヨタキャプテン 講師 細 谷 四方洋

昼食会

乾 杯 田原パシフィックRC会長 尾 原 脩
(敬称略)

来賓御芳名(敬称略・順不同)

田原町町長	柴田 芳三	地区ローターアクト委員	石川 敬	田原RAC第3代会長	尾崎 茂
田原町商工会会長	小笠原呂一	地区ローターアクト委員	佐治 導夫	田原RAC第6代会長	河合利則
田原青年会議所理事長	今泉 隆一	地区ローターアクト委員	青木 公貞	田原RAC第9代会長	斎藤 昇
ガバナー	蜂谷 弘道	田原RC会長	鈴木 富也	田原RAC第13代会長	上藤 敦史
地区ローターアクト委員長	野崎 洋二	田原パシフィックRC会長	尾原 脩	田原RAC第14代会長	小嶋 文雄
地区ローターアクト副委員長	中野 敏雄	地区ローターアクト地区代表	光村 彰浩	田原RAC第16代会長	鈴木 剛
地区ローターアクト委員	丹羽三千夫	田原RAC初代会長	柴田 清	田原RAC第17代会長	太田三千夫

事務局移転のお知らせ

名古屋栄ロータリークラブ
幹事 堀田 達夫

事務局を2月27日より下記の通り、移転することになりましたので、お知らせいたします。

記

■移転先 名古屋クレストンホテル1001号室
(〒460)名古屋市中区栄3-29-1

名古屋クレストンホテル

TEL 052-242-6848

FAX 052-242-6208

会長変更のお知らせ

豊田東ロータリークラブ
幹事 豊田 稔

当クラブの朝居 薫会長が去る2月8日急逝致しましたため下記の通り会長を変更させていただきますので、お知らせ申し上げます。

新会長 近藤照夫

新副会長 深田利幸 (クラブ奉仕委員長兼務)

ロータリー適用相場変更のお知らせ

国際ロータリー日本支局財務部

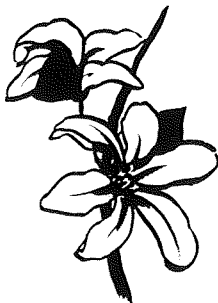
国際ロータリー世界本部より、本年4月1日からすべての振込に対する適用相場 (ロータリーレート) を、1ドル90円 (3月31日まで98円) に変更する連絡がありました。

お詫びと訂正——

ガバナー月信10号
8ページ、「名古屋
RC創立70周年」記事

中、ご来賓の刈谷RC紹介で、中田義人君が会長となっておりましたので副会長に訂正させていただきます。

また、同号10ページ、「パラオソーラー寄贈」の3月8日現在総計は、11,383,500円でした。併せてお詫び申し上げます。



おめでとうございます 新ポール・ハリスフェロー

＜1月下旬分＞

内田 薫(東知多)	堀田 正隆(名古屋駅)
相羽 英人(東知多)	柘植 守(名古屋駅)
新美 義博(東知多)	河合 一男(田原)
浅井 泰夫(名古屋駅)	立岩 宣之(田原)
日比野三吉彦(名古屋駅)	鈴木 薫(豊橋南)

＜2月分＞

河村 富正(名古屋空港)	猿渡 正(豊山-城北)
日江井 敏(名古屋西)	岩田 桂治(豊山-城北)
加藤 峰男(知立)	藤田 雄三(名古屋中)
中田 義人(刈谷)	竹内 一正(刈谷)
安藤 義和(豊田西)	川瀬 治通(春日井)
恵美 哲雄(豊山-城北)	小田喜七郎(尾張旭)
石山 肇(豊山-城北)	

パラオソーラーシステム寄贈

皆様のご協力を深く感謝いたします。

パラオへのソーラーシステム寄贈に際して大変ご協力をいただきありがとうございます。3月31日現在において、地区内クラブからソーラーシステム機器基金は、総計11,433,500円に達しました。

お礼かたがたご報告いたします。

MAKE-UPニコボックス

ご協力ありがとうございます。

ご協力頂きました金額は、3月31日現在、総額16,217,651円となっております。

計 報

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

3月15日	畑川 雅彦(蒲郡RC)
3月17日	鈴木 正治(名古屋RC)
3月17日	友松 芳男(名古屋守山RC)
3月20日	前田 政雄(名古屋東RC)
3月26日	新美惣右衛門(碧南RC)

R.I.2760地区2月度 出席報告

分 区	ク ラ ブ 名	出席率 (%)	例 会 数	会 員 数			分 区	ク ラ ブ 名	出席率 (%)	例 会 数	会 員 数			
				1994年 7月1日	当 月	増 減					1994年 7月1日	当 月	増 減	
尾張第一分 区	知 多	100.00	4	48	50	+2	西尾張分 区	あ ま	100.00	4	100	105	+5	
	半 田	99.20	4	72	73	+1		尾 西	98.33	3	59	60	+1	
	半 田	98.83	4	65	68	+3		一 宮	99.43	4	92	90	-2	
	東 知	95.91	4	58	60	+2		一 宮	98.78	4	86	83	-3	
	常 滑	99.25	4	67	67	0		稲 沢	98.85	4	66	65	-1	
	東 海	97.46	4	66	69	+3		西 井	98.82	4	65	65	0	
	計	98.44	—	376	387	+11		尾 張	100.00	4	49	47	-2	
名古屋第一分 区	名 古 屋	96.47	4	225	245	+20	東三河分 区	津 一	98.78	4	93	91	-2	
	名 古 屋	98.61	5	122	128	+6		一 宮	97.41	4	71	69	-2	
	名 古 屋	100.00	4	126	135	+9		計	98.93	—	681	675	-6	
	名 古 屋	100.00	4	98	100	+2		渥 美	渥 美	94.16	4	66	64	-2
	名 古 屋	99.83	4	157	158	+1			蒲 郡	95.76	4	79	80	+1
	名 古 屋	98.66	4	148	157	+9			奥 三	92.90	4	41	40	-1
	名 古 屋	99.49	4	101	100	-1			新 河	94.05	4	64	63	-1
	名 古 屋	100.00	4	74	80	+6			田 城	96.63	4	75	73	-2
	名 古 屋	97.92	4	82	96	+14			豊 原	98.50	4	131	129	-2
	名 古 屋	98.41	4	82	86	+4			豊 橋	100.00	4	81	83	+2
名 古 屋	98.38	4	73	77	+4	豊 橋	99.06		4	114	116	+2		
計	98.89	—	1288	1362	+74	豊 橋	98.38		4	86	87	+1		
名古屋第二分 区	名 古 屋	99.64	4	68	70	+2	豊 川		豊 川	98.51	4	77	80	+3
	名 古 屋	98.48	4	112	117	+5		豊 川	98.10	4	68	68	0	
	名 古 屋	98.58	4	114	115	+1		田原	98.10	4	66	66	0	
	名 古 屋	100.00	4	79	77	-2		計	97.01	—	948	949	+1	
	名 古 屋	98.35	4	68	63	-5		西三河第一分 区	岡 崎	99.74	4	116	114	-2
	名 古 屋	97.54	4	84	86	+2			岡 崎	99.27	4	81	84	+3
	名 古 屋	98.55	4	73	71	-2			岡 崎	99.67	4	76	77	+1
	名 古 屋	100.00	4	106	115	+9			岡 崎	99.53	4	111	115	+4
計	98.89	—	704	714	+10	豊 田	96.84		4	93	95	+2		
東尾張分 区	犬 山	100.00	4	77	80	+3	豊 田		豊 田	98.89	3	94	94	0
	岩 倉	98.17	4	46	44	-2			豊 田	99.25	4	103	105	+2
	春 井	100.00	4	82	84	+2			豊 田	99.13	4	30	29	-1
	小 牧	98.21	4	72	70	-2		計	99.04	—	704	713	+9	
	江 南	98.51	4	74	75	+1		西三河第二分 区	安 城	92.46	4	92	94	+2
	名 古 屋	99.27	4	71	70	-1			碧 南	99.70	4	83	86	+3
	尾 張	100.00	4	70	70	0			一 色	100.00	4	56	54	-2
	瀬 戸	100.00	4	81	83	+2			刈 谷	100.00	4	95	94	-1
瀬 戸	99.61	4	67	68	+1	知 立	100.00		4	54	56	+2		
豊 山	100.00	4	62	59	-3	西 尾	100.00		4	81	80	-1		
計	99.38	—	702	703	+1	西尾 KIRARA	90.87		4	59	58	-1		
						高 浜	99.02		4	47	52	+5		
地区内クラブ数72R.C. '94.7.1会員数5970名 増加会員数+153名														
当月末会員数6077名 減少会員数-46名														
当日平均出席率...98.54% 差引純増会員数...+107名														
計									97.76	—	567	574	+7	

「ポール・ハリス自伝」に思う

1994～'95年度国際ロータリー第2760地区

ガバナー 蜂谷 弘道

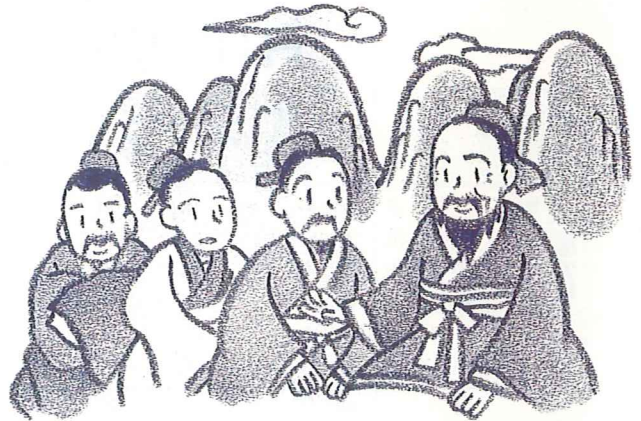
【ロータリーの哲学 その2】

以上が私の調べたロータリーの歴史であり哲学であります。一つの泉から流れ出た水が多く的小川を集めて大河となり、やがて大海に至るというロータリー発展の経過であります。ロータリーは、一業一会員制で選ばれた優秀な職業人の一人ひとりが親睦を通じて他の職業人から自己啓発を受け、人格を向上し、実力を蓄え、その一人ひとりが「世のため人のため」に働き、他の団体では果たせないような社会改良のエネルギーの源として、より明るい、より温かい世の中を造るために努めることが本来の目的であります。

従って、「I Serve」がその原動力であります。決議34号の2の4には、団体奉仕はあくまで任意のものであり、社会に対して公德心の喚起を行ったり、クラブの内部教育の一助として考えており、「We Serve」という団体奉仕をロータリーの奉仕と考えてはならないと規定されてます。

我々人類は、三千年の昔から洋の東西を問わず、人間の生き様を思索して参りました。すなわち哲学であります。

皆様よくご存知の孔子は人間の在り方を探求して儒教という形で哲学しました。14年間も放浪し亡命した「陳際の旅」は有名です。孔子が陳に滞在している時、呉と楚の間に戦いが始まります。両国とも大国です。小国の陳が主戦場になるのです。小国の陳はたまったものではありません。孔子は陳を逃げ出して楚の負函へ行かなければなりません。途中敗残兵に襲われて金になりそうなものや食料も全部奪われてしまいました。辺境の集落に辿りつくくと無人の村でした。孔子の一行は皆飢えと疲労で動けなくなってしまったのです。池の畔の桐林で皆それぞれ座ったり横になったりしていました。子はうす物を敷き、琴を爪弾いていました。その時、子路は立ち上がるとふらふらした足取りで子の方に近寄って子に向



かって、「君子もまた窮することがありますか。」と投げつけるように言葉を発しました。まるで怒っているようです。皆がここで死んでいくのであれば、一体今まで我々は何をしていたということになるか。子路は腹が立ってきたのでした。なによりも子が、子ともあろうお方が飢えておられることが悲しくもあり、腹立たしくもあったに違いありません。

「君子も窮する事がありますか。」子路はまた言ったのです。すると孔子はゆっくりと琴を放して子路の方に顔を向け、「君子固より窮す。」と言われたのです。皆がはっとする程力の入った大きな声です。そして追いかけて、「小人窮すれば、斯に濫る！」とおっしゃいました。「小人は窮すると自分を取り締まることができなくなる。併し君子は乱れない。」と言う言葉です。顔回も子貢も起き上がり居住いを正さずにはいられぬ思いでした。子の口から発せられた詞を聞いて、「もうこれでいい。これを聞いた以上、飢えようと死のうと構わない」。顔回も子貢も感動して、涙が止めどなく流れてきました。子路は深々と頭を下げると両腕を水平に広げ、ゆっくりと体を韻律にでものせるように動かし始めました。子路も泣いていたのです。

「君子もとより窮す。小人、窮すれば、斯に濫る！」と踊り始めました。この詞を子の口から出して頂いた以上、飢えようが死のうがそれが何であろうか。子路はうれしくて、大きな感動に泣いたのです。このように古人は涙を流し、死を賭して人間の生きる道を探求してきました。 <つづく>